

豊かな暮らしを守るために



どんなに備えても
起こってしまうのが災害。
水は私たちにとって、1日も欠かせない暮らしの基本。
だからこそ
「まさか」の時の備えを大切にしています。

災害時などに備え、最も大切なライフラインである水を確保するために、企業団では2つの視点から取り組んでいます。

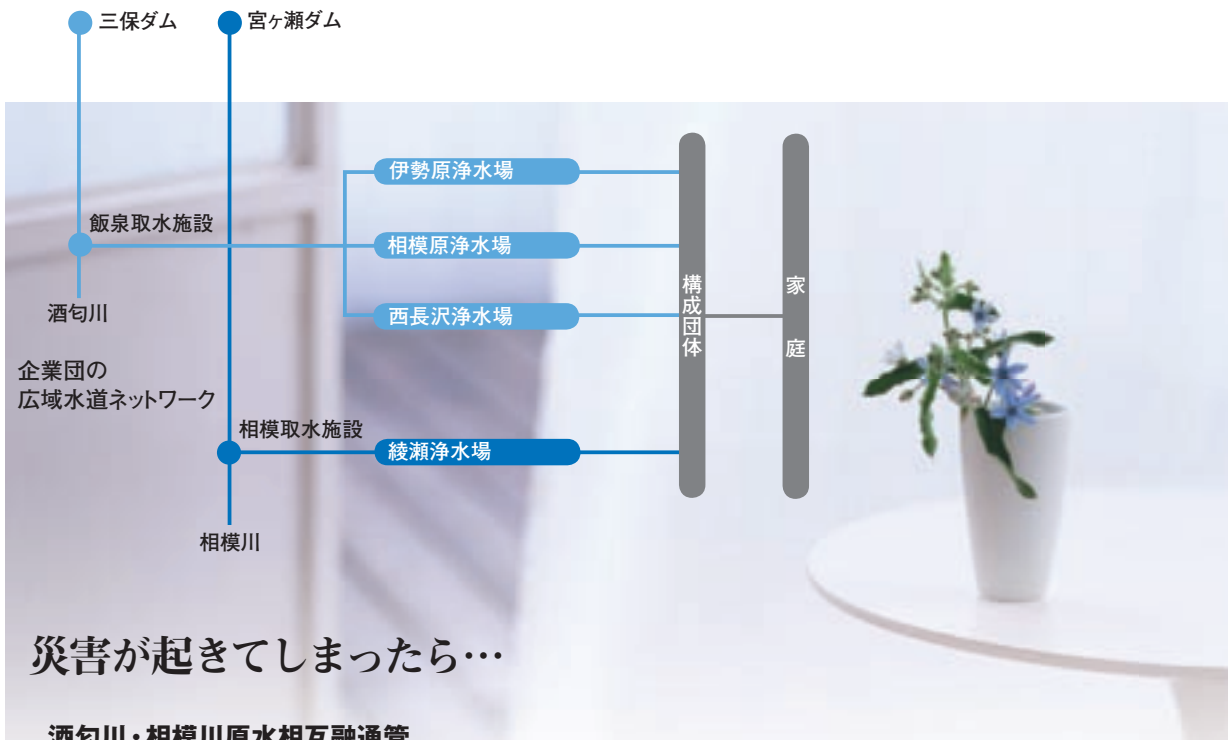
1つは、大地震などに備え、企業団の主要施設を強化して、災害時に被害を生じさせない「災害に強い水づくり」を実現させる対策。

もう1つは、実際に広域的な断水などの被害が生じた場合でも、生活への影響を極力減らすための水の確保と提供を行う対策です。

そして、万が一大きな被害が生じた場合の復旧体制の整備も欠かせません。

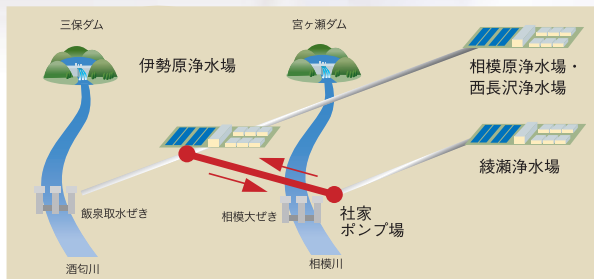


企業団は、どんな場合でも安定した水の供給を行うことで、県民の暮らしを支えています。



災害が起きてしまったら…

酒匂川・相模川原水相互融通管



酒匂川、相模川の2つの水源を持つ利点を生かし災害や水質汚染などの非常時に備えます。

通常、酒匂川の水は伊勢原、相模原、西長沢(川崎)の浄水場に、相模川の水は綾瀬浄水場に送られていますが、非常時には酒匂川と相模川から取水した水を約9kmに及ぶ導水管を使って相互に水を融通できるようになっています。これにより、災害に対する安全度は飛躍的に向上しました。



調整池と応急給水

災害などでやむを得ず断水したのために、県内8ヶ所の企業団の調整池に応急給水装置を配置しています。この給水装置から直接水道水を周辺地域の住民に給水したり、各水道事業者が行う給水車などによる給水活動をバックアップし、

ライフラインを守るための体制を整えています。



応急給水装置

※調整池とは、浄水場でつくられた水を一時的に蓄えておく施設です。



相模原PC調整池

災害に強い水づくりに取り組む

施設の耐震補強工事

災害が起きてしまった時の対応と同時に、災害に強い施設づくりにも取り組んでいます。

橋梁などが多大な損傷を受け崩壊した阪神淡路大震災などを教訓に、企業団においても、取水施設、浄水場、水管橋など重要施設の耐震診断を行い、非常時でも安定して水

を供給できるよう、順次耐震補強工事を実施し、各施設の耐震化を進めています。

素早い復旧を

万が一施設などに被害が生じた場合を想定して、復旧作業が迅速に行えるように、復旧資材の備蓄や水道事業者及び民間業者との応援協定を結んでいます。



橋脚の鋼板巻き付け補強工事

災害時におけるシステムも、それを実行するのは「人」。まさかの時に備えて、マニュアルの整備や災害を想定したロールプレイ訓練、応急給水などの訓練を重ね、いかなるときでも迅速で的確に対応できるように努めています。(写真はロールプレイ訓練の様子)